

人間ドック 胸部CT検診をお勧めします！

—肺がんの早期発見に威力発揮—

肺がんの現状について

ご存知の通り、日本人の死因の第1位は悪性新生物（広義のがん）ですが、その中で肺がん年間死亡数は最も多くなっています。現在、肺がん検診としては胸部エックス線写真（レントゲン写真）、または胸部エックス線写真+喀痰細胞診の組み合わせが広く行われていますが、早期の小さながんまで発見するのはなかなか難しいのが現状です。そのためより小さな病変を検出することができる胸部CT検診を当院ではお勧めいたします。

低線量肺がんCT検診の特徴

胸部エックス線写真では観察しにくい体の中心近くに発生したがんや、微小な肺がんの発見にも有効な検査です。低線量CTでは放射線被ばく線量を減らすため、通常のCT検査より照射線量を軽減させて撮影を行います。、異常陰影の存在の有無は十分に判断可能であることが証明されています。

1) 重なりがない

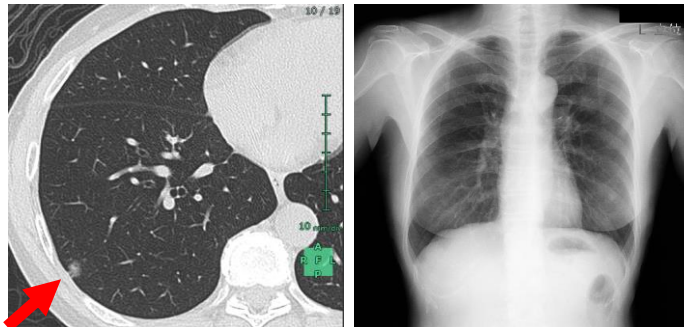
胸部エックス線写真では、肺の約3分の1は近接する臓器（心臓や血管、横隔膜など）と重なりますので、小さな肺がんを見つけることが困難な場合があります。

2) 解像度が高い

CTは分解能に優れるため、胸部エックス線写真に比べ、より小さな病変やコントラストの低い病変も検出することが可能です。

☆CT検査で早期の右肺腺がんが見つかった患者さんの検査画像

CT画像（左）の矢印で示した病変は
胸部エックス線写真（右）では検出が困難



低線量肺がん検診の方法

寝台の上にあお向けに寝ていただき位置合わせをしたあと、アナウンスにあわせて、息を吸って数秒間呼吸を止めている間に、肺全体を細かく撮影（多列ヘリカルスキャン）します。検査に痛みや苦痛などはありません。

このような方は検診をお勧めします。

- ★45歳以上の肺がんが心配な方（男女問わず）
- ★喫煙者（過去も含め）、特に1日の喫煙本数×喫煙年数=600以上の方
- ★同居者に喫煙者がいる方
- ★近親者に肺がんの患者さんがいる方
- ★咳・痰・胸痛が1ヶ月以上続く方
- ★肺がんが心配な方

